

おとうさんのテレワーク

杉山 倅彩

わたしが夏休み中に、おとうさんは、一しゅう間だけテレワークになった。おとうさんが、いえにいるから、わたしはともうれしかった。

おとうさんが、しごとをしている二かいのへやへ行って、わたしと妹は、ベッドの上であそんだ。とんだり、はねたり、ふとんの中にもぐったりした。

おかあさんにおこられたけど、おとうさんはおこらなかつた。でも、いつもおとうさんは、わたしが、言うことをきかないときは、とってもおこるからこわい。

おとうさんのパソコンには、カメラがついている。パソコンのがめんに、会社の人のかおが見えた。わたしのかおも、パソコンのがめんにうつっていておもしろかつた。

どうしても、へやに入ってはいけないときは、かぎをかけられた。けれど、かぎがかかっていないときにあそんでいても、おとうさんはおこらない。パソコンにむかつて、じつとしゅう中していた。

わたしは、ふと、ぎもんになった。おとうさんよりさきに、おひるごはんをたべながら、おかあさんに聞いてみた。

「しごと中に、おとうさんのへやであそんでいても、どうして、おとうさんは、おこらないのかな。」

「おかあさんも、おとうさんに聞いてみたんだよ。うるさいでしょ。なんでおこらないのかつて。」

おかあさんが、そう言っておしえてくれた。

「かぞくが、いえにいることはわかっていることだから、おこらないって。それと、せっかくだから、しごとをしているすがたを見てほしいって。おとうさんのしごとをしているすがたを見て、なにか気づいてくれたらうれしいなあって言っていたよ。」

わたしは、ハツとした。それから、言われる前にしゅくだいをやることにした。

おとうさんも、しごとをがんばっているから、わたしもべんきようがんばろう。

妹に、ひらがなをおしえてあげよう。

いつも、かえりがおそいおとうさん。「しゅう間テレワークになつてうれしかった。

パソコンにむかつて、しゅう中していたおとうさんを思い出して、わたしも、がんばるよ。

おとうさん、いつもかぞくのためにがんばつてくれてありがとう。